※令和３年度以前入学生用

１　国語

学校番号	T2101

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	国語総合ｂ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	「新編　国語総合　改訂版」　（大修館書店）						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ

・古文・漢文を中心とした古典を学習します。
・和歌や故事成語の学習もします。
・平安時代の暮らしや恋愛などの生活の様子も学びます。
・文法の学習よりも、古典作品の世界に触れることを重視します。
・声を出して音読をすることも大切にします。

２ 学習の到達目標

・簡単な古文を読み、文語表現に親しむ。
・漢文の訓読法を学び、書き下し文にできるようになる。
・日常でよく使う故事成語の意味と、もととなった逸話を理解する。
・古文や漢文を音読できるようになる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	授業に積極的に参加している。わからないことは質問し、発問に対して答える。課題をきちんとこなす。			古典の主旨を適切に読み取る。古典の書かれた背景も理解する。	漢字の読み書きができる。古語の意味を理解する。漢文を書き下し文にすることができる。
主たる評価方法	行動の観察 記述の確認 （配布プリント・課題）			記述の確認（配布プリント・課題） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （配布プリント・課題） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期（後期も同じ内容）	五十音図、いろは歌と仮名遣いの法	古文の導入 「五十音図、いろは歌と仮名遣いの法則」	○				○	a：教材の内容に興味を持ち、古文に親しもうとしている。 e：歴史的仮名遣いの法則を理解し、問題に答えることができる。 「いろは歌」には昔の人の考え方（諸行無常）が表現されていることを理解している。	a：授業での観察 e：プリント 授業での観察 定期考査
	古文入門	簡単な古文１ 教材 「ねずみの婿とり」	○			◎	○	a：教材の内容に興味を持っている。 d：正確に口語訳ができる。 e：歴史的仮名遣いを読むことができる。 古語の意味を理解している。	a：発問に対する応答 d：プリント・定期考査 e：音読の観察・定期考査
		簡単な古文２ 教材 「児のそら寝」	○			◎	○	a：鎌倉時代の僧侶たちの暮らしに興味を持っている。 d：正確に口語訳ができる。 e：歴史的仮名遣いを読むことができる。 古語の意味を理解している。	a：発問に対する応答 d：プリント・定期考査 e：音読の観察・定期考査
	漢文入門	訓読のきまり	○				○	a：教材の内容に興味を持ち、漢文に親しもうとしている。 e：「漢文訓読」成立の歴史的経緯について理解している。 「訓点」「白文」「書き下し文」について理解している。 「送り仮名」「返り点」について理解している。	a：授業での観察 e：プリント 定期考査
	故事	教材 「格言」	○			◎	○	a：教材の内容に興味を持っている。 d:漢文を訓読のきまりに従って、音読することができる。 e：漢文の内容を理解し、現代語訳することができる。	a：授業での観察 d：音読の観察 e：プリント 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。